

## 藤沢市立石川小学校

研究テーマ：いっぱい考えよう しっかり伝え合おう ことばでつながろう  
～表現力を高める授業づくりをめざして～

### 1 実践の目的

本校の児童は、大変素直で意欲的に学習に取り組む姿が見える一方、自分の思いや考えを伝えることが苦手な児童が多い。昨年度の学校評価アンケートの結果のうち、児童アンケートの“豊かに表現する子”に関する項目「思ったことや考えたことを友だちや先生に伝えようとする」では、他の項目に比べ否定的な答えが多く、その結果から、“授業の中で表現力を高める活動を取り入れることが必要”と考察した。

そこで今年度の校内研究では、研究テーマを「いっぱい考えよう しっかり伝え合おうことばでつながろう～表現力を高める授業づくりをめざして～」とし、児童の表現力を高める授業を目指し、1年間の校内研究に取り組んだ。

### 2 実践の内容

#### (1) 研究組織

各学年の児童の実態や発達段階に応じた実践となるよう、基本的には、学年部会で取り組むこととした。しかし、指導案検討や授業後の研究協議は、児童の発達段階や指導の系統性についての協議がなされることを想定し、低・中・高の連学年部会で行った。

#### (2) 研究授業

今年度は、まずは、全学年の児童の様子を見ようと、全員年間一回ずつ公開授業を行うこととした。指導案では、端的に授業者の思いが伝わるよう1ペーパーの略案とした。しかし、“テーマに迫るための手立て”と、

授業者が参観者に向けて、“参観の際に見て欲しいポイント”を必ず記載することとした。

参観方法としては、できるだけ授業者の思いに沿った授業の見方ができるよう、2色の付箋を用意し、ピンクの付箋には手立てに関する児童の姿を、緑の付箋にはその他授業全般に関することを記入することとした。授業後には、付箋の掲示で伝え合い、それをもとに学年等で授業の振り返りを行った。

#### (3) 各学年の取組

##### ○1年生 国語

作文の入門期の学習に取り組んだ。句読点の場所や、主語・述語のある文の書き方の指導から始まり、短冊を用いての文の並べ替えや、メモの作成から作文につなげた。

##### ○2年生 道徳 「親切・思いやり」

「様々な場面で、自分の立場や相手の気持ちに目を向けること、自分の考えを伝え合いながら温かい心で友だちに接しようという意欲を育てること」をねらいに実施した。役割演技を取り入れ状況の理解を促した。

##### ○3年生 国語・算数・社会・理科

学年テーマを「言葉を活かして聴き合い、伝え合うための土台づくり」とし、自分の考えを表現するだけでなく、友だちの考えや意見をしっかりと聴くことを大切に、話し合い活動や、クイズ形式の授業等、展開を工夫した。司会原稿の提示や記録をとりやすいようワークシートを工夫した。

##### ○4年生 国語

「4年生で学年レクレーションをするならば」を題材とし話し合い活動を行った。各クラスでの話し合いをもとに、クラスを超えたグループを作り、一人一人がクラスの代表として責任をもち話し合いを行った。

○5年生 総合「ハヶ岳ワンダー5！」

ハヶ岳野外体験教室の活動内容をグループごとにロイロノートにまとめ4年生に伝えた。プレ発表では、互いに伝え合う手立てとして「ワンダーカード」を活用しより分かりやすい資料づくりにつなげた。

○6年生 総合『目指せ！最高の6年生』

「互いの考えを認め合いながら協力して意見を一つにまとめる」をねらいとし、卒業に向けて最高の6年生としてどのような取組をしたいか話し合った。個々の考えや、話し合っ

てまとめたものを付箋に記録させ、グループ共有のための『かがやきシート』を活用した。



◎授業研究会・講演会

講師に、明星大学客員教授兼明星小学校長 細水保宏氏 をお招きし、『算数のよさや美しさ、考える楽しさを味わう授業ー「ハテナ？」から「なるほど！」「だったら、～」で授業を創るー』というテーマで、3年生への授業実践と、講演会が実現した。授業では、想定外に出会える課題、そして、児童が“問い”を生む先生の言葉かけ、さらに、細水先生の授業テンポに、子どもたちはあっという間に引き込まれ、生き生きと目を輝かせていた。目指したい授業を目の当たりにすることができた瞬間であった。講演会では、考える楽しさを味わう授業づくりのお話に加え、教師として、豊かな人間性を持つこと、

子どもと一緒に楽しむこと等、細水先生の温かさにも触れることができ、大変有意義な時間となった。

### 3 実践の成果

一人一実践の授業の中には、「表現力を育む」というテーマに迫るための、様々な手立てがあった。

自分の考えを、付箋やワークシートで整理し、その後のペアやグループでの話し合いにつなげること。その際、個々の考えを共有しやすいような大きなシートも有効であった。相手の考えが明確になることで、次の考えや発想が生まれ、新たな表現が生まれていた。その土台としては、グループ活動における司会や記録の方法を中学年でしっかりと身に付けることも大切な手立てである。

道徳の学習の役割演技のように、状況をしっかりと捉えることも、個々の考えを表現することにつながった。

### 4 今後の展開

実践から見えた課題に対し、今後は、次のことに取り組んでいきたい。

- ・自分の思いを言葉にできるための語彙力を高めるため、書く機会を増やしたり、感想を伝え合ったり等、言葉で表現する活動を意図的に授業に取り入れて行く。

- ・受け取った情報の整理の仕方や、意見の相違点に着目するなど、聴き方の指導を工夫していく。

互いに伝え合う中で、それぞれの考えを合わせて発展させたり、異なる意見に折り合いを付けたりしながら新たなものを創造していくことが、深い学びへと発展する鍵となる。そのことを実現するためにも、表現力の育成に加え、豊かな人間性の育成も目指していきたい。